



フィジー中学・高校 留学ガイド



求める学生像

フィジー中高留学では、様々な分野で活躍していく資質を持った学生を迎え入れます。

以下のような学生の選抜に努めています。

1. 英語で勉強する強い意志を持つ者
2. 発展途上国であるフィジー共和国において学ぶ目的意識・目標を持つ者
3. 海外高校に入学するために最低限必要な基礎学力・英語力が身についている者
4. 基本的なルールを受け入れることが出来、異なる生活・文化・習慣を受け入れることが出来る者
5. 保護者がフィジー共和国の高校に行かせる意義を理解し、学校とともに教育していく覚悟がある者

留学を成功させるための秘訣

留学を決めたら最後までやり通す、自分で留学を成功させる覚悟を持つ

「留学に行けば、英語が話せるようになる」の幻想を捨て、努力が必須になることを自覚する

日本人留学生同士で固まらず、フィジーの学生に気の合う友人を見つけるようにする

日本ではあり得ない!と思うことは日常茶飯事。違いを楽しむ

物事に対して不満を述べるのではなく、解決するにはどうしたらいいかを考えるクセをつける



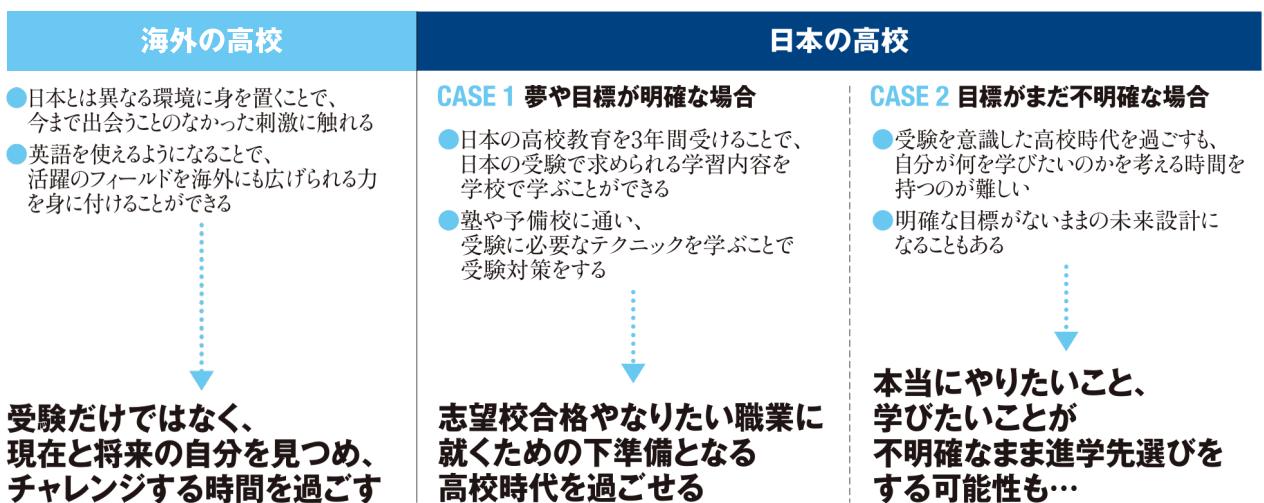
中高留学の価値

中高生で親元を離れる留学は心配。

できれば大学生ぐらいからの留学を考える方も少なくありませんが、中高生の今だからこそ、チャレンジする価値があります。

1 異なる環境で将来を考える

日本だと当たり前のように乗ることになる「大学受験へのレール」。本当に学びたいものが分からぬのに漠然と受験を目指すのが日本の教育の傾向です。まだ夢や目標が決まっていない人にとっては、異なる環境に身を置くことで「大学受験のための高校時代」ではなく、「本当にやりたいことを見つける時間」にすることも大切です。



2 早期に英語力を身に付ける

高校時代に「使える英語」を身に着けることで、大学では専門分野や第三言語を学ぶ時間を十分に確保することができます。英語力を身に着けるための大学生活ではなく、英語力を自分の武器とし、自分の専門性・将来性を高めるための時間にしましょう。また、海外の大学を目指す場合、大学入学のため／大学の授業を受けるための基礎力を付ける場となります。



3 内面の成長を感じる

“親元を離れ、自らで決断し、やり遂げる” “数々の苦労や困難に遭遇し、乗り越える” こういった経験をすることで、自立心、感謝の心、自信、他を受け入れる心、大きな視野で物事を考える力など、これから社会を生き抜く上で必要となる力を確立していくことができます。特に日本や先進国とは異なる途上国で過ごす時間を通じて、異なる文化・価値観を受け入れ、いかなるものにも動じないたくましい力を育むことができます。自身で決めた留学期間をやり抜くことで、“忍耐力” “定めたゴールを達成する力” も感じることができます。

学生が感じた“中高留学”

実際に海外での高校生活を経験した学生のみなさんに、
彼らが得たものを教えてもらいました。
みなさんが求める成長の中には、海外でこそ得られるものもあるのではなかどうか。

人生に責任を持つ 機会になりました　まで

(高校1年生から卒業まで／東京都出身)

高校3年間で沢山の経験をすることができました。日本では絶対できないような経験を沢山したことで自信がつき、何にでもトライできる勇気をもつことができました。またホームステイの経験を通して、家族じゃなくても絆ができることや、貧しい環境で育っても綺麗で素晴らしい心を持った人がいることを学びました。留学して失ったものもあったけど、それを受け入れてポジティブにとらえて後悔しない自分に成長することができます。自立し、自分の人生に責任を持つこと、一度だけの人生をどう生きるか考える機会をもらいました。



留学を通し、自信がつきました

(高校1年生から卒業まで／茨城県出身)

これから生きていく人生のなかでも、大きなターニングポイントになった経験だったと思います。人間としても成長できだし、英語力のほかにもたくさん得たものがあったので、留学したことによる後悔はありません。留学に行く前は、なかなか自分で物事を決めることができませんでしたが、いまでは迷うことが少くなりました。また、留学生活を通して自信をつけることができました。

他国での生活を通し、 責任感が強くなりました

(高校2年生から卒業まで／千葉県出身)

高校時代に留学をすることで、あえて人と違うことを選択し、それを達成したという自信がつきました。また、他国にいながら毎日学校に通い、進路を定めなければいけないということは簡単なことではありませんが、その分責任感が強くなったと思います。海外の高校で勉強すると、英語で勉強する分、問題文を理解することから全て頭を使うことになります。教科書などを読むだけでもしっかり頭の中で咀嚼して理解する必要があるので、日本で勉強していた時と比べてしっかり勉強している実感がありました。高校生で留学してよかったと思っています。



フィジー中高留学の価値

高校生の留学先としては、まだ聞きなれないという方も多いフィジー。

一方で毎年150名以上がフィジーの公立高校に在籍、学校内外で様々な経験をし学んでいます。そんなフィジー中高留学が選ばれる理由は、3つです。

1 REASONABLE COST

費用を理由に中高留学をあきらめなくてよい

一般的な先進国の留学では

年間500万円前後の費用が必要となりますが、

フィジー中高留学では年間250万円程度で

留学費用と生活費用をまかなうことができます。

フィジー中高留学は、これまで費用が高くて留学を諦めていた人にも、中高留学をより身近に感じてもらい、挑戦いただける留学です。

英語力や国際性、問題解決能力が必要な時代だからこそ、

中高生のうちから海外に飛び出し活躍してもらいたい…

そんな思いから最大限費用を抑えた留学をご案内しています。



2 FOR BEGINNERS

英語が苦手でも、シャイでも、挑戦できる

「世界一フレンドリー」と言われるフィジーの人々は、

おしゃべりが大好き。英語が苦手な学生相手でも

辛抱強く会話を続けてくれるので、実際の会話を通じて英語力を向上させやすい環境です。

そのため、入学時に求められる英語力は

他国の留学に比べて低く、中学校卒業程度と言われる英検3級相当の英語力でチャレンジできます。

「英語が得意ではないけれど、英語が話せるようになりたい…!」という人にぴったりの留学です。

3 CHALLENGE IN FIJI

「発展途上国」フィジーでの挑戦

発展途上国であるフィジーでの生活は、日本と比べると

不便だと感じることも少なくありません。

慣れるまでは大変だと感じることもありますが、

次第に「どうやって問題を解決したらよいか」

「次に困らないために、どうするべきか」を考えられるようになります。

このような思考力は、現在日本でもしきりに強調されています。

中高生という多感な時期だからこそ、

大きく成長できる環境へ身を置くことで

社会に求められる力を身につけることができます。



学生が感じた“フィジー中高留学”

フィジーという国で高校時代を過ごした学生達。

日本とは異なる文化を持つ国での生活は、学生の人生にどのような影響を与えるのでしょうか。様々な葛藤を越え、得られる成長がそこにはあるはずです。

英語への免疫ができ、心が広くなりました

(高校1年生から卒業まで／群馬県出身)

留学1年目は慣れることに必死でした。2年目はローカルの人とより仲良くなれて、英語力も伸びた気がします。英語で話すことが怖くなったり、発音や文法などまだまだなところもありますが英語への免疫ができました。ホームステイを通してフィジー系の人とインド系の人の文化や、イスラム教とキリスト教についても学ぶことができました。全くの他人と過ごすことは大変で、辛いことがいくつもありましたが、同じことで一緒に笑える時は幸せでした。留学を通して心が広くなったと思います。



帰国してからも、交流が続いています

(高校2年生から卒業まで／新潟県出身)

勉強ばかりの日本の高校につまらなさを感じているときに、フィジー留学を見つけました。留学を始めて数か月でプリフェクト(生徒会役員のような学校内の役割)に任命され、とても嬉しかったことを覚えていますいつもは厳しい校長先生が、笑顔でプリフェクトバッヂを制服につけてくれたことがとても印象に残っています。このプリフェクトの経験を通してフィジー人の友達が沢山できたし、帰国してからも毎日誰かしらとメッセージをやりとりしているような関係です。フィジーでは現地の人が挨拶をしてくれたり、話かけてくれたりしますし、こちらの話もちゃんと聞いてくれます。英語が苦手でも海外にいるという実感を感じやすい国なので、海外に初めていく人にもお勧めです!



フィジーで身につけた英語でも、全く問題はありません!

(高校3年生から卒業まで／愛知県出身)

フィジー留学をし、フィジーの学校を卒業したことは、自分にとってメリットにこそなれデメリットになっていると感じたことはありません。フィジーで英語を身につけることができたので、アルバイト先に外国人の方が来ると頼りにされます。南太平洋出身の人と英語で話していると、「フィジーっぽい話し方だね」と言われるくらい、自分はフィジーらしい発音が身に付いていますが、アメリカから来た人と話していくても発音で困ることなくきちんと通じるので、問題を感じたことはありません。これからは、世界や英語と関わる仕事をしていきたいと思っています。どんな分野で働くか、これから考え、見極めていきたいです。

フィジーの人との距離が縮まることで、留学にきてよかったです

(高校2年生から卒業まで／埼玉県出身)

親と離れた環境で、精神的にもとても成長できたと思うし、日本とは全く違う環境で生活してたくさんの経験ができたので、フィジーに留学をしてよかったですと思っています。最初は日本に帰りたくて仕方ない時もあったけれど、環境に慣れてフィジー人の友達やホストファミリーとの距離が縮まるごとに、どんどんフィジーに来てよかったですと思うようになりました。フィジーの人たちは優しくて寛大です。日本人にとっては嫌だなと思うことをされるときもありますが、他の友達がその気持ちを理解して注意してくれます。

フィジーの教育制度

日本とは異なる、フィジーの教育制度。
留学生はフィジーの教育制度に基づいて学習していきます。

フィジーの教育制度概要

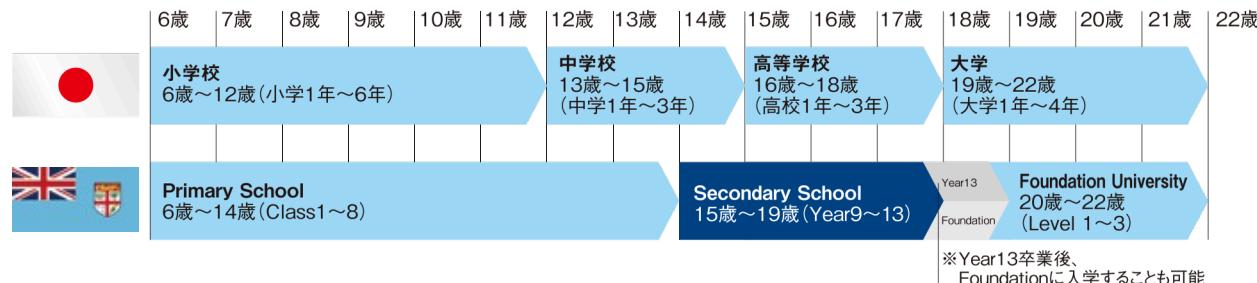
フィジーの学校年度は1月から始まり、12月に終わります。また、年度内3学期制を採用しています。

フィジーの高校を卒業すると、日本の高校を卒業することと同様に、日本の大学進学や海外の大学進学が基本的に可能となります。

学校制度	Primary8年(Year1~8)、Secondary5年(Year9~13)、Tertiary3年(Level1~3) SecondaryにてYear13を選択しなかった者は、大学で教養課程(Foundation)から始める。
学年開始時期	1月
学期制	3学期制
使用言語	すべて英語で統一されている。
大学進学率	Secondary Schoolから大学、高等専門学校への進学率はおよそ6割(2023年8月現在)。

*フィジー教育省その他の都合により変更される可能性があります。

学校制度の違い



年間スケジュール例



留学生の受け入れと入学資格

本校での日本人留学生の受け入れは、Year9(日本の中学3年生)からYear12(日本の高校3年生)までです。

受入校によって、入学できる学年や学期などの募集状況が異なります。

学年	入学を希望する学期	入学に必要な日本国内の学校における在籍期間と成績	入学対象年齢
Year 9 (日本の中学3年生)	1(1月～4月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	17歳以下
	2(5月～8月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
	3(9月～12月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
Year 10 (日本の高校1年生)	1(1月～4月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	18歳以下
	2(5月～8月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
	3(9月～12月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
Year 11 (日本の高校2年生)	1(1月～4月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	19歳以下
	2(5月～8月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
	3(9月～12月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	
Year 12 (日本の高校3年生)	1(1月～4月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	20歳以下
	2(5月～8月)	成績証明書 中学2年生の2学期末までの在籍証明書	

カリキュラム例

フィジーのカリキュラム例をご紹介します。

カリキュラムは例となり、科目やレッスン数は学校ごとに異なります。
学校別のカリキュラムは入学校決定後にご案内しています。

2025年8月現在

学年	英語科目名	日本語訳科目名	レッスン数/週	
Year 9-10	English	英語	5	合計 30
	Mathematics	数学	4	
	Basic Science	科学基礎	3	
	Commercial Studies	商業	3	
	Social Science	社会	3	
	Physical Education	体育	1	
	Family Life Education	ファミリーライフ	1	
	Art & Craft	図画工作	1	
	Music	音楽	1	
	Christian Education	キリスト教	1	
選択科目 (Selective Subjects)	Agricultural Science	農業		
	Basic Technology	技術基礎	各3	
	Home Economics	家庭科	(2教科)	
	Office Technology	オフィステクノロジー		
必修科目 (Compulsory Subjects)	English	英語	6	
	Mathematics	数学	5	
	Physical Education	体育	1	
	Career	キャリア	1	
	Family Life	ファミリーライフ	1	
Year 11-12	History	歴史		合計 30
	Chemistry	化学		
	Accounting	会計		
	Applied Technology	応用技術		
	Agricultural Science	農業		
	Home Economics	家庭科	各5	
	Biology	生物	(3教科)	
	Economics	経済		
	Technical Drawing	設計基礎		
	Physics	物理		
	Geography	地理		
	Computer Studies	コンピューター		

※カリキュラムは例となり、学校によって科目やレッスン数が異なります。

※入学学年・入学時期によって選択できる科目に限りがあることがあります。

※単位交換や進学などの理由で、

必ず受講しないといけない科目がある場合はご注意ください。

時間割例(月曜日～金曜日)

フィジーの時間割例をご紹介します。

時間割は例となり、学校別の時間割は入学校決定後にご案内しています。

2025年8月現在

時間	授業内容	
8:00 → 8:20	Devotion / Form Time	朝のお祈り/出欠確認
8:20 → 9:10	Period 1	1時間目
9:10 → 10:00	Period 2	2時間目
10:00 → 10:20	Recess	休み時間
10:20 → 11:10	Period 3	3時間目
11:10 → 12:00	Period 4	4時間目
12:00 → 12:40	Lunch / DEAP	昼食/午後のお祈り
12:40 → 13:30	Period 5	5時間目
13:30 → 14:20	Period 6	6時間目
14:20 → 15:10	Period 7	7時間目
15:10 → 15:25	Duties	清掃
15:30 →	Dispersal	解散



交換留学(留学扱いの場合)を目指す方へ

フィジーの高校は日本の高校のような「単位制」を採用しておらず、「週あたりのレッスン数」によってカリキュラムが作られています。
日本の高校との単位交換が可能かどうかについては、事前に学校に確認する必要があります。詳細はお問い合わせください。

※学校によって判断基準は異なります

※確認する際は、上記のカリキュラム例・時間割例及び学生募集要項内「年間スケジュール」をご参照ください。

学校紹介

フィジー中学・高校留学で通学いただく学校を紹介いたします。
通学校は選考試験にて決定いたします。

Ba Provincial Free Bird Institute



住所(私書箱)	Saru, Lautoka City, Fiji (P.O.Box 620, Lautoka, Fiji)
電話番号	+679-666-2778
ロケーション	ラウトカ市郊外の高台に位置
創立年	1973年
学年	Year9～Year13(日本の中学3年～大学1年に相当)の5学年/18クラス+職業訓練2クラス ※日本人留学生の募集はYear9～Year12まで
学生数	約800名

Jasper Williams High School



住所(私書箱)	3 Wainunu Street, Lautoka, Fiji (P.O.Box 620, Lautoka, Fiji)
電話番号	+679-666-0014
ロケーション	ラウトカ市の中心地に位置
創立年	1956年
学年	Year9～Year13 (日本の中学3年～大学1年に相当)の5学年/19クラス ※日本人留学生の募集はYear9～Year12まで
学生数	約750名

Sangam Sadhu Kuppuswamy Memorial College



住所(私書箱)	Park Street, Vonovou Lane, Nadi P.O. Box 11065, Nadi Airport, Fiji Islands
電話番号	+679-670-0878
ロケーション	ナンディ市街地より徒歩圏内に位置
創立年	1958年
学年	Year9～Year13(日本の中学3年～大学1年に相当)の5学年/22クラス+職業訓練3クラス ※日本人留学生の募集はYear9～Year12まで
学生数	約1100名

フィジー留学の教育プログラム概要

フィジー留学ではローカルクラス・ESLクラスの2つのプログラムを軸にした教育プログラムを提供。それぞれの概要をご紹介します。

ローカルクラス

「基礎に重点を置いた学習内容で、実力を身に付ける」。
フィジーの教育方針に基づき、勉強に励みましょう。



フィジーでの学習

先生の板書と口頭説明が 中心の授業スタイル

基本的に教科書は使用せず、先生がまとめた板書に則って授業が進みます。その場で、英語で説明される授業内容を理解することは最初の半年間は難しいはずです。ノートをきちんと写し、和訳をしながら復習し、内容を理解することが必要となります。

基礎に重点を置いた 学習内容

複雑な発展問題などはあまり重視せず、その単元で基礎となる内容をしっかりと理解することを重要視しています。いくら高度な教育を受けても、内容が確実に理解できないのであれば、意味がありません。着実に基礎力をつけ、その後の学びの土台としましょう。



授業で習った内容が そのままテストで試される

授業で先生が黒板にまとめた内容や、「ここは重要です」と強調した場所は基本的にそのままテストに出ます。普段の授業の参加と内容理解を頑張れば、比較的勉強についていきやすいと言えるでしょう。



日本での学習・海外での学習

国や地域により、受ける教育内容は異なるため、海外の高校へ通った場合、日本の高校とは異なる学習をすることは当然です。例えば、日本では日本史の授業がありますがアメリカでは国史であるアメリカ史を学びます。また、学校によって大切にしている教育方針にも違いがあります。日本や韓国のように、大学受験を大きなゴールとしている国では、基礎や定義を理解することよりも、受験テクニックや暗記を重要

視することが多いと言われています。一方、ドイツを代表とするヨーロッパ諸国では、即戦力として社会に出ることを目指した職業教育という道も、義務教育課程の後に一般的に用意されています。どんな環境で教育を受けるとしても、与えられた教育内容をきちんと理解し、吸収することができるような姿勢を取ることで、その後の大学進学時や社会に出たときにも課題を乗り越える力を身に付けられるのではないかでしょうか。

ESLクラス

ESL授業では、英語が母語でない留学生でも「英語」という科目を受講・理解できるようにローカル授業の「英語」の内容から一部変更したカリキュラムで学習します。

ESL授業の特徴

1 高校カリキュラムと同時並行で受講

多くの留学プログラムでは、高校カリキュラム開始前に一定の英語力を身に付けるための英語研修が必要となり、高校入学時期が後ろ倒しになってしまいます。フィジー留学は高校カリキュラムと同時並行で英語を学ぶため、英語研修のために入学時期をずらす必要がありません。



2 追加費用なしでの受講

多くの高校留学プログラムでは、入学前に4か月～8か月の英語研修が必要となります。通常、英語研修のため別途費用がかかりますが、フィジー留学では追加の授業料なしでESLを受講します。



3 アカデミックスキルの習得

語学習得のためだけの授業ではなく、高校カリキュラムの「英語」の受講を目指し、英文を読む力、英語で文章を書く力などアカデミックスキル=『使える英語』も習得することができます。

ESLの受講

受講時間	正規留学生
通常授業	学校時間割に準ずる
ESL	英語の時間に受講
テスト期間	テストを受験

※コマ数は2023年8月現在のもので変更の可能性があります。

在校生の英語学習

在校生の英語力向上のステップ*

留学の目標として多くの人が掲げる、「英語力の向上」。

人によって英語力の伸び方は異なりますが、今までの学生の例から実際留学に行くとどのように英語力が伸びていくのか、自分が目標とする英語力を身につけるためにはどれくらいの期間が必要なのか、イメージしてみましょう。

英語力の伸びのイメージ



進学・就職に必要となる英語試験

留学期間を通して、実践的に使える日常会話力を身に付けることに加えて、英語資格を取得することで、大学受験の際や就職活動の際のアピールポイントを作ることが出来ます。

TOEIC試験は姉妹校「Free Bird Institute」(語学学校)で受験が可能です。

また、IELTS試験は滞在する都市の近隣で受験するチャンスもあります。

自分の英語力の伸びを確認するためにも、積極的にチャレンジしましょう。

歴代TOEICスコアランキング

学生	点数	学年	スコア取得時の留学期間
Aさん	950	Year 11	1年2ヶ月
Bさん	910	Year 12	1年3ヶ月
Cさん	880	Year 11	1年5ヶ月
Dさん	880	Year 12	2年3ヶ月
Eさん	875	Year 12	11ヶ月
Fさん	875	Year 12	2年1ヶ月
Gさん	845	Year 12	10ヶ月
Hさん	845	Year 12	1年8ヶ月

2023年8月現在

在校生に聞いた「TOEIC得点を伸ばすメソッド」

200点台～400点台

- とにかく単語を覚える!
- 日々の授業や会話で、英語に触れる機会をできるだけ増やす

500点台～700点台前半

- 数冊の問題集を何度も見直し、徹底的に復習する
- 英語に触れる機会を増やすために、英語表記のサイト(ニュースサイトなど)を利用する

700点台後半～

- 英語の小説を読む、英語の映画を見る
- 模試を週に1回ペースで行う

TOEIC試験以外の英語資格試験

今後は大学受験時に、民間の資格・検定試験を活用する可能性もあります。

積極的にチャレンジしましょう。

IELTS

海外留学や研修のために英語力を証明する必要のある方が受験するテストです。イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの高等教育機関で認められています。

こんな人に向いている

海外の大学進学を目指している人

フィジーでの受験可否

スバ(開催場所は年度によって異なります)

*フィジーでの受験可否については2025年8月現在のもので変更の可能性があります。

課外活動

学生から学ぶ「授業の受け方のコツ」

「ノートを取ること、フィジー人学生を頼ること!」
(RYOTAさん／高校2年生から卒業まで)



授業についていくために気を付けていることは、ノートをちゃんと取ることと、先生が口頭で説明した内容もメモを取ることです。1学期目は授業内容が全く分かりませんでしたが、2学期目から理解できるようになりました。あとは、日本人でかたまって座らず、フィジー人学生の隣に座るようにしています。公式なども、日本で使うものとは違うことがあるので、分からぬ時はフィジー人学生に聞くようにしています。授業中、分からない単語があっても調べる時間が短くて大変なこともありますが、時間が足りない時は休み時間に辞書を使って調べるなど工夫しています。フィジーなので、授業が時間通りに始まらない・終わらないことも大変なことの1つです(笑)普段ホームステイ先では1時間～2時間くらいの家庭学習ですが、テスト前の休日は1日中頑張ることもあります。日本人はフィジー人学生と比べるとただでさえ英語ができないので、とにかく自分で行動しないと何も始まらないです!

「日本との学校文化の違いに慣れよう!」
(MANAさん／高校2年生から卒業まで)



フィジーの授業では教科書を使わないことが多く、ノートを取る量が多いことが大変です。また、ケレケレ(※物の共有を当たり前と考える文化)も多いのでペンなどが戻ってこないことも大変です(笑)日本のようにきっちりと物事が決まっていないため、授業が進むスピードも日によって違います。次の授業で説明するから!と言って途中で終わらせた内容を、先生も忘れて結局説明してくれないこともあります(笑)授業中に分からないところがあった際にはフィジー人学生や、先生に聞いたりしています。英語で授業を受けることが心配という人もいるかもしれません、電子辞書を使いまくってください!今の電子辞書はとても便利で使いやすいですよ。テスト前は2週間くらい前から、毎日3時間～4時間くらい勉強しています。経済のテストに出てくる単語はTOEICに出てくる単語とかぶることも結構あります!

授業外の活動

学校授業の他にも、学生が主体となり様々な体験・経験をすることができます。
興味があることがあれば、自ら行動・企画し充実した留学生活をおくりましょう。

スポーツフェスティバル

3校すべての留学生が集まり、ドッヂボール/サッカー/綱引きなどを通して交流を深めます。
普段会わない留学生と友達になり、留学で役立つ情報も交換できたりもします。体育祭のようなイベントですが日本のようにかっちりした雰囲気ではなく、好きなスポーツをのびのびしながら楽しんでいます。

活動例①



フェスティバル出場

フィジーのお祭りでは、移動遊園地や出店に加え、コンテストやダンスなどのステージパフォーマンスが行われます。ラウトカ市で行われるシュガーフェスティバルというお祭りでは、留学生の有志も毎年のようにステージパフォーマンスに参加しています。10代のミスコンテストでは、スピーチや特技の披露など様々なステージを経て、タレント賞を受賞した学生や優勝した学生もいます。



活動例③

ボランティア

ラウトカ市にある図書館と、日本の「桃太郎」「さるかに合戦」を英語に翻訳した紙芝居をつくり、市内の子供たちに読み聞かせをしました。図書館との交渉、紙芝居の作成も学生自身で行い、実現に至りました。こうした学生からの発案による活動も多くあります。その他、フィジーでのボランティアは動物愛護施設や孤児院支援など様々な活動が可能です。

活動例②

体験留学生との交流

体験留学生向けに、正規留学生が先輩として、フィジーの文化や実際の会話で役立つ英語、生活のコツ、休日にお勧めの観光地スポットなどを学生自ら紹介しています。

活動例④

部活動立ち上げ(チアリーディング)

陸上競技大会に出場する選手たちを応援するため、学生達が自らの力でチアリーディング部を発足させました。振付も所属するメンバー達で考えて、フィジーでは珍しい日本風の振り付けも取り入れました。陸上競技大会にて、一般的の観客もいる中で堂々とダンスを発表。彼女たちのような日本人留学生によるチアダンスが行われたのは初めてだったため、フィジーで行われるダンスとは一味違う彼女たちのパフォーマンスは観客の歓声を集めました。

活動例⑤

留学生の受験

留学生の受験方法は実に多様です。英語力を活かした入試や帰国生入試、総合型選抜(旧AO入試)など、受験方法も様々な挑戦の仕方があります。留学生の受験においてのポイントや、受験対策、進学実績、受験方式などを参考に、早めの進路対策を行っていきましょう。

1 「やりたいこと」をするために「何を学ぶか」を考える

自分がなりたい将来像や理想の職業に近づくためには、何を学ぶことが必要でしょうか。学ぶ場所は大学や専門学校など様々な選択肢があります。自分が求める将来にはどんな知識や経験が必要か事前に把握し、大学や専門学校などを選択することが大切です。

2 学びたいことを明確に持つことがポイント

帰国生入試などの面接や志望理由書が必要な入試では、志望する学校・学部で何を学びたいかが問われます。学びたいことや、この大学だからこそ入学したい理由、そこで身に付けていた力を明確にすることが合格を勝ち取るポイントになります。留学中には、学びたい分野につながる活動をするように心がけましょう。

3 受験は現役合格だけではない

帰国生は、受験時期のずれや受験対策の時間確保のために、必ずしも現役合格を目指すとは限りません。帰国後に行われる試験への挑戦など、選択肢を幅広く持ち、受験の計画を立てましょう。本校でも、帰国の翌年度に受験し、合格した学生もいます。

先輩の受験対策インタビュー

Q 志望校はどうやって決めましたか?

A 学校サポートオフィスのスタッフの方にも相談しながら、興味がある「幼稚教育」「英語」「交換留学ができる」をキーワードにして探しました。そのうえで、学力レベルや日本の自宅からの距離、英語力がどれくらい重視されるかを調べ、志望校を絞り込みました。

Q 受験に向けた情報収集はどうやって行いましたか?

A 志望校を選ぶための情報は、主にインターネットで探しました。志望校が確定した後、両親から大学へ資料請求をしてもらい、届いた資料を日本からフィジーへ送ってもらいました。

Q 出願書類はどのように準備しましたか?

A エントリーシート、調査書、大学から提示された課題図書に対する読書感想文を準備しました。また、必須ではありませんでしたが、TOEIC試験のスコア表も提出しました。読書感想文では、異国での友人との絆について描かれた小説を選択しました。内容が面白く、引き込まれるように読みし、フィジーで出会った人とのエピソードを交えながら、率直な感想を一晩で一気に書き上げました。書き上げた後に学校サポートオフィスのスタッフの方にも読んでもらいましたが、「フィジーでの3年間の経験による引き出しがあるからこそその感想文で、良くできている!」と褒めてもらいました。

Q 二次試験当日はどうでしたか?

A 二次試験は面接で、フィジーでは十分に準備ができないまま一時帰国をしました。帰国後は面接の常識についての本を買い、お辞儀やノックの仕方を練習したり想定問答集を作りました。面接当日は、フィジーについてや通っていた学校について、面接官からたくさん質問を受けました。フィジーという途上国に3年間住んだからこそ日本を客観視できること、日本の当たり前がフィジーでは全く当たり前でないこと、英語以上に学べたことが多い3年間だったことなどを話しました。面接の最後には、面接官の先生に「フィジーのことを全く知らなかったので、いっぱい質問してしまったわ」と言われ、他の受験者の2倍も話していました。

Q 後輩に向けてのアドバイスをお願いします!

A TOEICなどの資格試験には早めに取りかかり、早めに目標の点数を取得しておきましょう。TOEICの点数が高いと、それだけ志望校選びのときに可能性が広がります! あとはホストファミリーなど、フィジーの人となるべく多くの時間を一緒に過ごすこと。フィジーでしか得られない発見をたくさんすること、フィジーでしかできないことをやっておくこと。これが一番大事です!



SHUNOさん
・高校1年生から卒業まで
・白百合女子大学合格

推薦予備校のご案内

海外の高校では基本的に、受験対策は学生・保護者が主体で行います。早期情報収集、受験対策に役立つ、本校推薦予備校の情報を紹介します。

トフルゼミナール 海外帰国生教育センター

●コース(一部)

TOEFL / TOEIC / IELTS 対策、帰国生小論文、帰国生現代文、帰国生人間力養成講座(書類対策)等

●推薦受講時期

Year11(高校2年生)の3学期終了後(12月~1月。一時帰国をして受講)

※受験一時帰国中(8~10月)に直前対策個別指導を受講することも可能

※フィジー滞在中は一部メールサポートあり

※Year11以外の学年でも随時、受講可能

●校舎

高田馬場、池袋、渋谷、四谷、立川、調布、町田、横浜、藤沢、大宮、船橋、大阪、神戸、名古屋、京都など

卒業後の進路

はじめに

種類	学校名	学部 学科	入試形式
4年制大学	埼玉大学	教養学部 教養学科	帰国生入試
	横浜市立大学	国際総合学部 国際教養学科	AO入試
	早稲田大学	国際教養学部／政治経済学部 国際政治経済学科	AO入試
	国際基督教大学	教養学部 アーツ・サイエンス学科	帰国生入試
	上智大学	総合グローバル学部 総合グローバル学科／文学部 フランス文学科	海外就学経験者入学試験
	明治大学	政治経済学部／法學部 法学科	AO入試／海外就学者特別入試
	青山学院大学	教育人間科学部 教育学科	一般入試
	中央大学	経済学部 経済学科／公共・環境経済学科	帰国生／英語運用能力特別入学
	法政大学	法學部 政治学科／商業・貿易学科	一般入試
	学習院大学	経済学部 商業学科	帰国生徒入試
	東洋大学	文学部 哲学科	帰国生入試
	國士館大学	文学部 英米文学科	AO入試
	創価大学	21世紀アジア学科	帰国生入試
	神奈川大学	国際教養学部	AO入試
	神田外語大学	経営学部 国際経営学科	AO入試
	日本大学	イペロアメリカ言語学科 スペイン語専攻	AO入試
	流通経済大学	国際関係学部 国際教養科／観光学部 観光学科	AO入試／帰国生入試
	白百合女子大学	法學部 ビジネス法学科	AO入試
	大東文化大学	文学部 英語英文学科	AO入試
	桜美林大学	看護学部	自己推薦
	淑徳大学	リベラルアーツ学群／グローバルコミュニケーション学群	AO入試
	デジタルハリウッド大学	地域創生学部 地域創生学科	総合型選抜
	東京未来大学	デジタルコミュニケーション学部 デジタルコンテンツ学科	AO入試
	立命館大学	モチベーション行動科学部 グローバルコミュニケーション学群	AO入試
	関西大学	グローバル教養学部	AO英語基準入学試験
	近畿大学	政策創造学部	AO入試
	関西外国语大学	国際学部 グローバル専攻	AO入試
	京都外国语大学	外国語学部 英米文学科／英語国際学部 英語国際学科	AO入試
	大和大学	国際貢献学部 グローバル観光学科	AO入試
	大阪経済法科大学	政治経済学部	一般入試
	甲南大学	経済学部 経済学科	帰国生入試
	京都産業大学	文学部 社会学科／英語英文学科	帰国生入試
	神戸学院大学	外国語学部 国際関係学科	帰国生入試
	天理大学	人文学部 人文学科	AO入試
	中京大学	国際学部 地域文化学科	AO入試
	愛知学院大学	経済学部 経済学科	AO入試
	名古屋音楽大学	文学部 グローバル英語学科	AO入試
	広島大学	音楽学科 ジャズ・ポピュラーコース	AO入試
	西南学院大学	総合科学部 総合科学科	AO入試
	立命館大学アジア太平洋大学	法學部 法律学科	AO入試／推薦入試
名桜大学	アジア太平洋学部／国際経営学部	AO入試	
沖縄大学	人間健康学部スポーツ健康学科	AO入試	
	国際コミュニケーション学科	AO入試	
海外	Orange Coast College(アメリカ合衆国／カルフォルニア) 国立台北科技大学(中華民国／台北) Help University(マレーシア／クアラルンプール)	Business 応用英語学科 International Business	
短期大学・専門学校	国際短期大学	国際観光コース	AO入試
	平安女学院	国際観光学部 国際観光学科	帰国生入試
	関西外国语短期大学	英米語学	指定校推薦
	日本外国语専門学校	英語本科 公務員専攻／国際ビジネス科 総合ビジネス専攻	AO入試
	首都医療専門学校	看護学部 高度専門士看護学科	AO入試
	東京IT会計法律専門学校千葉校	法律学科 公務員初級コース	AO入試
	ハリウッドビューティー専門学校	美容科	推薦入試
	神田外語学院	ホテル科／アジア・ヨーロッパ言語科／英語専攻科	推薦入試
	大阪ホスピタリティアカデミー	旅行学科	AO入試
	大阪eco動物海洋専門学校	海洋生物保護専攻	AO入試
	布池外語専門学校	文化教養専門課程 オーパーシーズ学科	AO入試
	神戸リハビリテーション福祉専門学校	介護福祉科	AO入試
	大原簿記専門学校	公務員事務系	AO入試
NIC International College in Japan		特待生入試チャレンジB	

※近年の入試改革により入試名は変更となっておりますが、卒業生が実際に受験した受験方式名にて記載しております。

受験方式

学校情報

帰国生入試

帰国生入試とは海外就学経験が1年～3年ある学生に対して実施される方式です。現在400以上の大学で実施されています。すべての学部・学科で実施している大学もあれば、一部の学部・学科のみしか実施しない大学もあります。受験資格は「外国において学校教育における12年の課程を修了した、あるいは修了見込みであること。」を基本的な条件としています(各大学により在学年数、保護者同伴必須条件の有無、卒業後の超過年数などの条件を設けている大学もあります)。選考方法は書類選考と面接が一般的です。

総合型選抜(旧AO入試)

総合型選抜とは、受験生の学ぶ力を総合的に評価・判断する選抜方法です。志望理由書や調査書といった書類審査、小論文や大学入学共通テストなどの学力試験、面接などを通して人物を評価し、学校側が求める学生像(アドミッションポリシー)に一致する人物を選抜します。学業成績に加え、語学資格、部活動の成績やボランティア活動の経験、個人的な活動(芸術活動、芸能活動など)をアピールすることができます。

一般選抜(旧一般入試)

一般選抜とは、各大学で課せられる入学に必要な基礎学力を測るための試験を指します。独自の試験を課す方式、大学入学共通テストの点数のみで判断する方式、その両方を合わせて計算する方式、英語の外部試験などを利用する方式など大学、学部によって出題傾向は様々です。2020年度からスタートした大学入学共通テストでは思考力や判断力を測るために「知識の理解の質を問う問題」「思考力・判断力・表現力を要する問題」が増えています。

生活情報

フィジー中高留学の体制

フィジー中高留学では、様々な組織が携わり、みなさんの留学をサポートしています。スムーズな問題解決のため、ご相談時はそれぞれの担当窓口にご相談ください。

留学前のご相談

東京・大阪
カウンセリングサロン
South Pacific Free Bird



入学に関するご相談

- 例 : ●入学者の募集
●入学に必要なお手続き

こんな時にご相談ください

- 高校留学に向けて、何から準備したらいいかわからない
- 国内進学と海外進学で迷っており、違いを知りたい
- フィジー留学の具体的な内容を知りたい

留学中・留学後のご相談

フィジー
学校サポート
Free Bird Institute



各種申請、 解決できないトラブルについての相談

- 例 : ●学校生活・留学生活に必要な各種お手続き
●学生ビザの管理

こんな時にご相談ください

- 大学受験のために証明書を発行してほしい
- フィジーの文化や状況などについて、知りたい／相談したい
- ホームステイ先と話し合ったが、解決できないトラブルがある

授業のここがわからない、行事の内容を知りたい…

そんな時は、直接フィジー人の先生に聞きましょう

通学するのは「フィジーの公立高校」。そのため、学校で行われる授業や学校行事等はすべて、受け入れ校のフィジー人教師により運営・管理されています。授業や学校のスケジュールなど、学校に関する質問がある際は、直接担任の先生や授業の担当の先生に聞き、フィジー人学生と同じように生活できることを目指しましょう。聞き方がわからないときは、先輩に聞いてみる、学校サポートスタッフに相談するなど、工夫して解決しましょう。



フィジー留学中のご相談について

直接、学校サポートオフィスへの相談が可能です

学生の皆さんは渡航後、日本とは違うフィジーの文化、学校生活・環境について、様々な悩みや課題が出てくると思います。悩みや課題が出てきたときは、まずは自身で解決できないかを考えてみてください。留学中の深刻な悩み、滞在中のトラブルについてのご相談、質問については、日本人スタッフがお答えいたします。留学後の必要手続きについても保護者様からの相談が可能です。

日本語での相談が可能です

渡航後、学生・保護者様ともに日本語での相談が可能です。保護者様は直接、国際電話で学校サポートオフィスへお問い合わせができます。英語力が不安な学生も日本語で相談ができます。



留学中の相談方法(学生)

学生の自立を促すために、相談は学生からの予約制をとっています。

留学中の悩みやトラブルは、積極的に自分から相談をして解決を目指しましょう。

① 予約



まずは相談の予約受付。「ホームステイ先での悩み」や「学習についての悩み」など、アドバイスが必要な際には自分から相談予約をしましょう。

② 相談



悩んでいることを、日本語で相談をすることができます。問題の解決方法と一緒に考えましょう。

③ 解決



相談をして考えた解決方法を実践してみましょう。留学中は「悩む」→「解決策を考える」→「解決」というステップを繰り返していくことで成長するチャンスです。

留学中の相談方法(保護者)

学生に関する学校・留学生活の相談については、平日の学校時間内に電話で直接、学校サポートオフィスへご連絡いただいています。

① 確認

事前に学生とコミュニケーションをとっていただき、日本人のスタッフと相談したい内容をご確認ください。
(日本時間朝5時~14時/サマータイム導入時は朝4時~13時)

② 相談

保護者様、日本人スタッフも一緒に、学生の問題解決をしていきます。
学生ご本人が問題解決ができるよう、保護者様からのアドバイスの仕方などをスタッフに相談していきましょう。



お子様を留学へ送り出す保護者の皆様へ

お子様の留学にあたり、保護者様も下記の点を心がけてください。

- 1. 本人に留学への目的・やりとげる覚悟を持たせる
- 2. 留学前に親と子で十分にコミュニケーションをとる
- 3. お子様とは定期的に連絡を取れるように準備をする
- 4. お子様の可能性を信じ、最後まで留学を応援する
- 5. 日本とフィジーの違いを理解するように努める

在校生・卒業生の 保護者様からのメッセージ

1年ぶりに見る息子の姿から、 留学の成功を確信

(高校2年生から卒業まで／東京都出身)

「え、フィジー!？」

留学するなら高校生の間にと息子に話してはいたものの、選んだ場所がフィジーときいて驚きました。高校生活はそれなりに楽しめてはいましたが、淡々と過ぎてゆく日常に、「このまま流れに身を任せていいいのか?」と本人なりに漠然とした不安があったようです。

「折角留学するなら発展途上国でどこまでやれるのか?自分を試してみたい。」ちょっと短絡的かと思いましたが、色々調べて熟慮の末だと頑として譲らない本人の決断を尊重し、思い切って送り出しました。

フィジー留学に関して親として心配が全くなかったかといえばうそになります。ただ、幸いホストファミリーにも恵まれ、日常生活面での問題もなかったようです。

もちろん、便利で安心、安全な日本に比べれば苦労はあり、文化の違いにも戸惑うことはあったと思いますが、大学の推薦入試の準備で1年ぶりに一時帰国した際、自信に満ち溢れた表情で成田空港の入国ロビーに現れた息子を見て、留学の成功を確信したことを覚えています。

息子はその後、そのままフィジーで高校を卒業し、TOEICの点数は留学前から500点もアップ。第一希望の大学にも合格し充実した学生生活を送っています。

帰国後、語学力のアップ以外に、日頃の言動から息子の成長を感じることが2つあります。一つは学ぶことの大切さに気づいたこと。留学前の状況からは信じられないぐらい色々なことに興味をもち勉強し、行動するようになりました。そしてもう一つは、周りにいる多くの人々に支えられて今の自分があるのだということを理解したことです。

息子は今、世の中の人々に役立つ仕事がしたいと公務員試験の合格を目指し、日夜勉強に励んでいます。今後の人生、楽しいことばかりではなく、悲しいことや苦しいこと様々な経験をすることになると思いますが、フィジー留学で得たものを糧にどんな壁も乗り越えていけるはずだと信じ、そして応援しつづけたいと思っています。



「このままの自分ではいけない。

留学を機に変わりたい」と

強い意志を見せて留学を決意。

留学後は「日本に帰りたい…でも頑張る」と。

(高校2年生から卒業まで／愛知県出身)

私は冬休みの2週間のオープンキャンパスへの参加を勧めました。しかし次女は説明会から帰ると正規入学したいと申しました。私も夫も大変驚き、突然の事で大変悩みました。

しかし本人の意思は固く「このままの自分ではいけない。留学を機に変わりたい」と強い意思を示しました。

留学して2ヵ月程過ぎた頃、案の定ホームシックになり、電話口で何度も泣いておりました。「日本に帰りたいけど…でも頑張る」と。「帰つておいで」と、のど元まで出でましたが本人の為に口に出してはいけないと想い我慢しました。娘を信じ、自分の力で困難を乗り越えられるよう祈るしかありませんでした。子育て=自分育てとも言うように親の私も成長させてもらっていると思います。事実、様々な壁にぶつかり経験をしながら娘は成長しているようです。

先日フィジーへ行ってきました。学校見学、ホスト先への訪問等させていただき、想像以上に先生・スタッフ・ホストファミリーの皆様が温かい方々でしたので、安心して帰国する事ができました。フィジーの子供たちは「人を許す心」を持っていると感じます。きっと「許す心」を持つ大人に育てられるからではないでしょうか?今日本の難しくなっている、人として大切な心の教育がフィジーでは普通に学べるのではないかと思います。

フィジーでの経験は、今後の娘の人生に大きく意味のあるものになると確信しております。



息子の留学で、私たちの世界も広がった

(高校2年生から卒業まで／千葉県出身)

「留学したい」と、息子の声がはっきりと親の私達の耳に聞こえたのは、高校入学して2ヶ月後でした。留学先探しをしていた時にふと目に飛び込んできたのが、「高校留学は南国フィジーへ」の文言でした。説明会に参加し、トントン拍子に物事が進み、年明け早々に日本を飛び発っていました。それまでは息子の行動の多くに手や口を出していましたが、さすがにフィジーにいると出来ず、自己責任で2年間を過ごしました。良い事ばかりではありませんが、本当にさまざまな経験をしたと思います。卒業して帰国した息子は、内面から自信があふれて、とても成長していました。今は志望の大学に無事合格し、在学中ですが、大学でも悩みながら頑張っています。私達の世界も広げてくれた息子に、感謝しつつ、これからとのさまざまな出会いを楽しみにしています。



保護者の皆様に聞いた 「留学前・留学中・留学後のいろいろ」

Q お子様をフィジー留学に送り出そうと思った理由は何ですか？

- A**
- 若いうちに世界を感じて、心に響く何かを得られたらいいなと思いました。
高校進学を考えた時に、日本の高校に魅力を感じられず、息子の高校生活の平凡な日常が想像できてしまったからです。
 - 本人の希望(銃社会ではないので安全面で安心、物価が安い、のんびり過ごせそう)を最優先させました。

Q 留学中、保護者として意識していたことや、どのようなサポートをしてきたか教えてください。

- A**
- こちらからはなるべく連絡を取らないようにして、困った時は自分で考え解決できるようになってくれたらいいなと考えていました。
本人から連絡(LINE、スカイプ等)がきた時は、聞き役にまわりました。
 - 食生活は大丈夫なのか?勉強はしっかりできているのか?が気になり、スカイプで連絡を取り合いました。
 - 用がない時も、なるべく連絡を取るようにしました。日本のニュースや息子が望む情報なども教えてあげたりもしていました。
親として、フィジーのことを調べたり、ホームステイ先の方との交流も考えたりしました。

Q 留学を経て感じるお子様の成長を教えてください。

- A**
- 「お金やゲーム、携帯電話が充実していないくとも幸せだよ」と留学に行って半年くらいで言われました。
本質を見る・感じられる人になれると思いました。
 - 英語が上達したことです。また、日本の良さ、自分1人で生きているのではなく、周りのサポートあっての自分だと気付いたことです。
 - 外見もですが、考え方がしっかりしたと思います。親から見るとまだまだですが、確実に成長したと思えます。
 - 対人態度が物怖じすることがなくなっていました。また、積極性が出ていました。
 - 恥ずかしがらずに自分の意見を言えるようになった気がします。

Q 留学をさせて良かったと思うことは何ですか？

- A**
- 人との出会いの大切さや、本人の視野が広がったことだと思います。
日本に住んでいて、自分達がいかに恵まれた環境にあるかや、時間の大切さも分かったようでした。また、親子関係が良くなったとも思います。
お互いに相手を思いやる気持ちが強くなったかな。
 - 異文化を体験できること。日本での生活がいかに恵まれているか実感できたのではないかと思います。
 - 自立・自己成長に向け努力し、成果を上げられたということが自信に繋がったと思う。

Q 留学体験はご卒業後の進路にどのように役立ちましたか？

- A**
- 英語を活かせる職を意識している点で、選択肢が広がったように感じます。
 - 自分のやりたいことを見つけ、夢の実現のために大学で国際経営学を学ぶことになった点です。
 - フィジーに留学していなかったら、志望大学に会えず、やりたいことも分からなかつかもしれません。
また、今後も英語や世界を視野に考える大学の授業にも役立つと思います。



異文化を肌で感じるホームステイ滞在

ホームステイ滞在は文化も価値観も違う家族との生活になりますが、積極的にお手伝いなどをして家族とコミュニケーションを取るよう心がけましょう。

フィジー留学のホストファミリー

各家庭は、本校の設備確認を受けた家庭です。1人部屋を提供され、食事は朝と夜（休日は3食）家族と同じものを食べます。また、門限は19時と決められています。安全に留学生活を送るために、きちんとルールを守って生活をしましょう。

ホストファミリー

人種

フィジー系とインド系がメインです。その他パートヨーロピアンやパートチャイニアーズなどの混血のファミリーもいます。原則、人種はリクエストできません。



言語

フィジーはバイリンガル国家です。フィジー語やヒンディー語なども母語として存在します。家庭内の家族同士の会話では母語を使用することもありますが、留学生には英語で話します。



宗教

フィジー系はクリスチャンの方が多く、週末は教会に行く家庭が多いです。インド系はヒンドゥー教の方が多く、家庭によっては食べることを控える食材があります。

食事

フィジー系

イモ類がメイン。タロイモやキッサバなどのイモ類と一緒に、お肉やお魚・スープなどが出ることが多いです。味はシンプルで、日本人にとてもクセのない食事が多いです。



インド系

カレーがメイン。チキンや野菜、豆など色々な種類があり、毎日違う種類のカレーが出ることが多いです。辛くないカレーや辛さを抑えてもらうこともできます。



レストラン

日本食、中華料理、ピザ屋、ファーストフードなどのお店やカフェなどがあります。

ネット環境

ホームステイ先

パソコンを持っていない家庭も多いです。インターネット契約などは学生が個人で行うのが基本。ポケットWIFI、フィジーのSIMカードを利用している学生が多いです。

街の中

インターネットカフェがあります。フィジーの地元の方は、インターネットカフェでパソコンを利用することが多いです。

携帯電話

現地で安価なものを購入＋日本の携帯の契約を変更して持ってくる学生が多いです。スマートフォンはフィジーでも普及しつつありますが、日本ではよく使われているiPhoneなど、性能の高いスマートフォンはフィジーでは未だに高額であるため、盗難には十分注意しましょう。

移動手段

通学

徒歩かバスが主な手段です。家庭によって移動手段や通学時間が異なりますが、長くても40分前後で通学できるようになっています。学校初日の登下校では、ホストファミリーが送り迎えをしてくれます。バスが混雑しているときは、プラス10分～20分かかります。

タクシー

日本と比較するととても安いです。政府公認の安全なタクシーがナンバープレートですぐ見分けられます。外が暗くなったらタクシーに乗りましょう。



留学生のホームステイ体験談

留学生はホームステイで、どのような過ごし方をしているのでしょうか。



みんな本当に優しく家族の一員とみてくれています

(Fijian Familyのホームステイに滞在した学生)

私の家族は、ファーザー、マザー、12歳、10歳、4歳の女の子と、0歳の男の子の6人家族です。みんな本当に優しくて、私を家族の一員として見てくれます。気を遣うことなく過ごせています。家に帰ったら、家族とおやつを食べて、そのあとは、ディナーまでテレビを見たり、話をしたり、外でバーボールをしたりします。ディナーの後は、その日の宿題をして分からないところはホストファミリーが教えてくれます。食事は、ライス、キャッサバ(フィジーで主食として食べられているイモ)、パンが主食で、毎日変わります。金曜日には、教会に行きます。生活していく上で気を付けていることは、自分の意見をしっかりと伝えることと、家族の意見も聞いて、理解することです。



食事や行事、文化の違いを積極的に楽しんでいます

(Indian Family のホームステイに滞在した学生)

顔がかっこいいお父さんと、細いお母さん、お父さん似の3歳の女の子と1歳の弟が私のフィジーでの家族です。イスラム教なので「ナマステー」ではなく、「アサラマレクム」と挨拶します。食事はカレーが主ですが、チョプスィー(野菜炒め)やヌードルなどもよく食べます。ちなみに、お父さんの作る“チリチキン(鶏肉の炒め物)”が私の大好物です。この前、サリーを着てイスラム式の結婚式に行ってきました。インド人のきれいな人に囲まれながら、真似してごはんを手で食べてみたけど、なかなか難しかったです。土曜日は庭にプールを出して子供達と水遊びでもしようと思います。

お互いに尊重し合えるホストファミリーです

(Part European Familyのホームステイに滞在した学生)

私のホストファミリーはマザー、ファーザー、子ども3人、マザーの妹の6人家族です。子どもはそれぞれ2歳、8歳、12歳の子たちです。ホストマザーはフィジー人ですが、ホストファザーが他の国とのミックスの家庭です。家庭内では基本的にすべて英語を使って話しています。ですが、ホストマザーは子どもに対しては、英語とフィジー語の両方を使って話すこともあります。ほぼすべての人たちがバイリンガルで、単一民族ではないことがフィジーの特徴なので、母語を大切にしているからこそ、子どもにはあえて英語以外も教える、という家庭もあるみたいです。ただ、学校の授業はすべて英語で行われるので、子どもたち同士も英語で話すことが多いです。ホストファミリーとコミュニケーションをよくとっています。ホストファザーからはお仕事の話をよく聞いています。ファーザーは、映画関係の仕事をしていて、裏方で撮影地の予約をしたり、色んな場所に出かけたりしています。ホストマザーは週に2、3回大学に通っているので、大学での授業の話を聞いています。子どもたちも色々な話をします!比較的年齢が近い、長男の子とよく話します。学校であったことや、テストのことなどが中心です。家族がみんなとっても優しくて、いつも僕のことを気にかけてくれている感じが伝わります。自分から距離を近づけていこう、と努力をすると、それが返ってきて嬉しい、もっと仲良くなりたい!という気持ちが強くなります。

申込概要

留学国/学校名

フィジー共和国 /Ba Provincial Free Bird Institute (共学校)

Jasper Williams High School (女子校)

Sangam Sadhu Kuppuswamy
Memorial College (共学校)

留学期間

正規留学・交換留学

最短1学期(約4か月間)~4年間

- 卒業留学、単位互換留学も可能
- 中学3年生~高校3年生まで参加可能

必要書類

別紙「学生募集要項」をご確認ください。

正規留学・交換留学

入学願書、申込書類、長期学生ビザ書類、パスポート等

入学資格

正規留学・交換留学

必要条件を満たし、本校選考試験に合格した方

留学参加のための選考試験

正規留学・交換留学

提出書類および試験結果によって総合的に合否を決定します。

また、保護者の方の適性試験の受験も必須となります。

YEAR 9・10入学者:英検4級程度

YEAR11・12入学者:英検3級程度

募集人数・募集期間

正規留学・交換留学

別紙「学生募集要項」をご確認ください。

年3~4回の選考試験にて募集します。

ご案内の窓口

●留学前のご相談

日本オフィスがご案内の窓口となります。

留学生活のご案内～ご渡航までの準備をサポートします。

●留学中・留学後のご相談

学校サポートオフィス(フィジー現地)がご案内の窓口となります。

各種書類の発行、学期スケジュールや滞在中の

各種お問合せについてご案内します。

※国際通話、メール問い合わせが必須

●様々な補助制度

日本政府奨学金

教育のために必要な資金を融資する公的な制度です。入学時や在学中の費用として、利用できます。

日本政策金融公庫教育ローン

<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

地方自治体奨学金

文部科学省では、高校生の留学促進事業を行っており、原則1年間、外国の正規の中等教育機関(高等学校等)に通う高校生を対象に、留学経費の一部を都道府県を通じて支援しています。各都道府県の担当窓口へお問い合わせください。

金融機関教育ローン

各金融機関が用意している教育目的のためのローンで、子どもの高校や大学進学の資金として保護者が借りるのが一般的です。

三菱東京UFJ銀行教育ローン

<http://www.bk.mufg.jp/kariru/kyouiku/index.html>

三井住友銀行教育ローン

https://www.smbc.co.jp/kojin/mokuteki_loan/kyouiku_m/index.html

みずほ銀行教育ローン

<https://www.mizuhobank.co.jp/retail/products/loan/education/index.html>

入学までのモデルスケジュール

説明会/個別相談会への参加



入学選考試験・入学手続き

入学選考試験は年3～4回のみ実施。
直近の選考日については
別冊「学生募集要項」をご確認ください。



長期学生ビザ申請、航空券・保険手配

ご出発4か月～2か月前のご準備



渡航前オリエンテーション参加

ご出発2か月～1か月前のご参加（必須）



ご出発

よくある質問

Q 英語初心者ですが入学できますか。

A 本校の選考試験の合格基準は、YEAR9、10への入学希望の場合は英検4級程度、YEAR11、12への入学希望の場合は英検3級程度です。また、英語試験のほかにも書類審査と適正試験があり、総合的に合否を決定します。適正試験については学生・保護者のみなさまの留学への意欲を問う試験もあります。

Q 1月、5月、9月入学。それぞれの違いは何ですか？

A **• 1月（1学期入学）**
フィジーの年度始まりから参加できるため、勉強についていきやすいです。YEAR10（高校1年生）の1学期より留学を希望する場合、日本の中学校の卒業資格や卒業証書が得られるのかを事前に通っている中学校にご確認ください。

• 5月（2学期入学）

日本の教育システム（3月の学年終了）上、渡航がしやすい入学時期と言えます。ただし、1学期分の学習は自主学習で補う必要があります。

• 9月（3学期入学）

大学受験への影響を最小限にできるため、高校1年生の交換留学で人気な入学月です。※高校2年生の交換留学では1月と5月入学が人気です。

Q 選考試験はいつ、どこで行われますか。

A 基本的には年3～4回開催します。年度によって異なりますので、詳細のスケジュールは別冊「学生募集要項」をご確認ください。

Q 合格率はどの程度ですか？

A 過年度の平均では7割～8割程度です。海外生活を送る上で最低限の英語力と留学への高い意欲を問う内容となっています。

Q “留学に行けない人”的条件は何かありますか。

A あります。

• 過去に飲酒・喫煙等の法令違反をした学生

フィジーでも高校通学者の飲酒・喫煙は固く禁じられています。そのため、過去に飲酒・喫煙を含む法令違反をした学生は入学受付ができません。

• 現在や過去を通して、精神疾患を含む通院や投薬経験がある学生

フィジーは発展途上国そのため、日本よりも医療水準は劣ります。そのため、心身の健康状態によって入学受付ができない場合があります。該当する方は必ず担当スタッフまでご相談ください。個別に詳細をお伺いいたします。

